



はじめに

岩出市長 中芝 正幸

新しい時代の幕開けとされた21世紀。物や情報があふれ、グローバル化が進み、社会経済情勢は日々加速度的に変化しています。超少子高齢・人口減少社会の到来とともに、国においては、政権交代によるさまざまな行財政改革が進められるとともに、地方分権の進展、補助金・負担金などの一括交付金化、地方交付税の見直しなど、地方を含めた大きな変革の時期にあります。また、世界経済においても世界同時不況をもたらしたリーマンショックからはじまり、ユーロ圏を揺るがし、ギリシャの経済危機へと続いた世界規模での景気の悪化は底打ちしたといえども、日本経済においては、まだまだ予断が許されるものではなく、非常に厳しい状況が続いています。

このような状況の中、岩出市では、平成18年(2006年)4月1日、単独での市制を施行し、この市制施行を新たな飛躍の契機として、市民の皆様方が住んでよかったと思えるまちづくりに取り組んでまいりました。



少子・高齢化、福祉・保健・医療、教育、都市基盤の問題など、我がまちを取り巻く課題は山積しています。これら諸課題に的確・適切、かつ迅速に対応するためにも、あらかじめ本市の方向性を示しておく必要があります。このまちの舵取りにあたるのが、「第2次岩出市長期総合計画」であります。

今回策定しました長期総合計画は、今後10年間の本市の基本方針を示したもので、この長期総合計画に基づき、着実にまちづくりを進めてまいりたいと考えています。

道路や下水道などの整備といったハード事業や福祉の増進、教育の充実、青少年の健全育成、防犯のまちづくりや自主防災組織の育成などといったソフト事業。これらハード事業、ソフト事業をバランスよく行うことで、より快適で安全・安心な岩出市が実現できるものと考えています。しかし、これらの事業を進めるにあたっては、行政だけで進めるのではなく、市民の皆様方と行政が「対話と協調」のもと、相互に協力し合ってこそ、住んでよかったと思えるまちづくりを進めることができるものと考えています。

この長期総合計画の策定にあたっては、平成9年度から続けている※「市政懇談会」や「まちづくりアンケート」、また、長期総合計画素案の「パブリックコメント」など、直接市民の皆様方の声を取り入れるとともに、学識経験者や各種団体などから参加していただいた委員から構成する「岩出市長期総合計画審議会」においても、この素案のご審議をいただきました。

本市を取り巻く状況は、一段と厳しい状況ではありますが、市民の皆様方とともに、「活力あふれるまち ふれあいのまち」の実現に向け、市民、地域、行政、民間企業、関係機関等が連携し、取り組んでまいりたいと考えています。

結びに、「市政懇談会」や「まちづくりアンケート」などを通して、幅広いご意見・ご要望、また、ご提言をいただきました市民の皆様方、長期総合計画策定にあたりご審議賜りました審議会委員の皆様方に心から感謝を申し上げます。

※平成17年度までは「町政懇談会」。

